



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4601S		
科目名	ゼミナール I		
担当教員	上野 幸彦		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 2		
講義室		単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 3－G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 D P 4－F〔探究力・課題解決力〕問いを設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 6－K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（20%） G1 状況把握(10%) F1 探究と論拠(10%) F2 課題解決(10%) K1 ライティング・コミュニケーション(10%) K2 オーラル・コミュニケーション(10%) L1 チームワーク(20%) M1 統合的・応用的学修(10%)		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3発展期～4定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基盤となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。ここでは、問題意識を確立し、卒業論文につながる個人研究のテーマを決定すると同時に、先行研究を収集して専門領域に関する知識を獲得します。 授業形態は、演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。		

	す。 (キーワード) 研究とは、テーマの設定、課題の探究								
授業の趣旨	■副題 卒業論文の作業を行うに当たっての準備について ■授業の目的 ゼミナールは、4 semester にわたる学修の成果として、卒業論文の提出が課されています。その第 I 期として、卒業論文とは何か、どのように書くのか、どんな作業が必要なのかといった基本的な事項について整理したうえ、そのためのトレーニングとして、実際の論文を読むとともに、自らも論文に向けて必要な学修を積むために、発表を行ってもらうことが、この授業の目的です。 ■授業のポイント 実際の論文に接して、ゴールが何かを明確に認識し、そのために要求される知識や技能とは何かを意識することが重要です。								
総合到達目標	【一般目標】 研究のための基礎的な能力を養成するため、研究に取り組む姿勢を身に付け、必要なノウハウと基本的な技能を修得する。 【個別行動目標】 ■社会問題に対して、法学的な観点から分析し、説明することができる。(第1回～15回) ■社会的な事象について、危機管理の観点から課題を発見することができる。(第1回～15回) ■社会的な課題に対して、解決を導くための方法について説明することができる。(第1回～15回)								
成績評価方法	■発表 (50%) : 適用ルーブリック F1・F2・E1・H1・H2・I1・I3・K2 (評価の観点) テーマに関する適切な理解と問題解決への合理的な手順が踏まれているかという観点を中心に評価します。 (フィードバック方法) 発表者に報告草稿の提出を求め、是正すべき点などについて指摘します。 ■ディスカッションへの参加度 (50%) : 適用ルーブリック E1・H1・H2・K2 (評価の観点) 主体的・積極的にコミットし、協働して問題の解決を図るという姿勢について判定します。 (フィードバック方法) 授業の最後にコメントします。								
履修条件	とくになし。								
履修上の注意点	報告者が発表するテーマについて、他のメンバーも事前学習を行い、積極的・主体的に課題と取り組み、活発なディスカッションによる有意義な学修成果を獲得できるように努める。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ 「論文」を書くということ ②授業概要 論文とは何か、どのように書くのかという点について、基本的な説明を行います。 受講者は、論文とは何かを理解し、ゼミナールのゴールである卒業論文作成プロセスについて表現できるようになり、そのために自らが何を行う必要があるのかについて説明できるようになる (E1)。 ③予習 (120分) 各自、興味を持っているテーマに関し、学術雑誌に掲載されている論文をコピーして一読し、(1) 構成と概要、(2) 引用されている文献の数についてまとめる。 ④復習 (120分) 論文を書くために必要な作業について整理する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 「論文」を書くために ②授業概要 実際に論文を書くために必要な作業について、具体的なプロセスを追いながら確認しましょう。 受講者は、論文作成作業の具体的な内容を理解し、説明できるようになる (E1)。 ③予習 (120分) 前回、各自が選択した論文に関して、こうした成果物を作成するためにどのような作業が必要であるのかを整理する。 ④復習 (120分) 論文を書く作業について、具体的なステップを確認する。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 「論文」を分析する (1) </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 「論文」を書くということ ②授業概要 論文とは何か、どのように書くのかという点について、基本的な説明を行います。 受講者は、論文とは何かを理解し、ゼミナールのゴールである卒業論文作成プロセスについて表現できるようになり、そのために自らが何を行う必要があるのかについて説明できるようになる (E1)。 ③予習 (120分) 各自、興味を持っているテーマに関し、学術雑誌に掲載されている論文をコピーして一読し、(1) 構成と概要、(2) 引用されている文献の数についてまとめる。 ④復習 (120分) 論文を書くために必要な作業について整理する。	2	①授業テーマ 「論文」を書くために ②授業概要 実際に論文を書くために必要な作業について、具体的なプロセスを追いながら確認しましょう。 受講者は、論文作成作業の具体的な内容を理解し、説明できるようになる (E1)。 ③予習 (120分) 前回、各自が選択した論文に関して、こうした成果物を作成するためにどのような作業が必要であるのかを整理する。 ④復習 (120分) 論文を書く作業について、具体的なステップを確認する。	3	①授業テーマ 「論文」を分析する (1)
回	内容								
1	①授業テーマ 「論文」を書くということ ②授業概要 論文とは何か、どのように書くのかという点について、基本的な説明を行います。 受講者は、論文とは何かを理解し、ゼミナールのゴールである卒業論文作成プロセスについて表現できるようになり、そのために自らが何を行う必要があるのかについて説明できるようになる (E1)。 ③予習 (120分) 各自、興味を持っているテーマに関し、学術雑誌に掲載されている論文をコピーして一読し、(1) 構成と概要、(2) 引用されている文献の数についてまとめる。 ④復習 (120分) 論文を書くために必要な作業について整理する。								
2	①授業テーマ 「論文」を書くために ②授業概要 実際に論文を書くために必要な作業について、具体的なプロセスを追いながら確認しましょう。 受講者は、論文作成作業の具体的な内容を理解し、説明できるようになる (E1)。 ③予習 (120分) 前回、各自が選択した論文に関して、こうした成果物を作成するためにどのような作業が必要であるのかを整理する。 ④復習 (120分) 論文を書く作業について、具体的なステップを確認する。								
3	①授業テーマ 「論文」を分析する (1)								

	②授業概要 選択した論文について、著者が何を課題とし、どのようなアプローチにより、どのような思考プロセスをたどって、どのような解決を導いているのかを分析して報告し、全員でディスカッションを行います。 受講者は、問題提起とその結論（仮説）の導き方について学び、報告に基づく相互間の討論を通じ、課題に対する探究や解決に関して、批判的に検討・検証し合いながら、自己自身の考えを合理的な論拠に基づきながら、より適切に表現できるようになる（E1・G1・F1・F2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自、選択した論文について、著者の「問い」（問題関心・課題の捉え方）、課題へのアプローチの方法、「答え」（結論）に至る思考プロセスを分析する。 ④復習（120分） 「問い」の性質とアプローチの方法との相関関係について検討する。
4	①授業テーマ 「論文」を分析する（2） ②授業概要 選択した論文について、著者が何を課題とし、どのようなアプローチにより、どのような思考プロセスをたどって、どのような解決を導いているのかを分析して報告し、全員でディスカッションを行います。 受講者は、問題提起とその結論（仮説）の導き方について学び、報告に基づく相互間の討論を通じ、課題に対する探究や解決に関して、批判的に検討・検証し合いながら、自己自身の考えを合理的な論拠に基づきながら、より適切に表現できるようになる（E1・G1・F1・F2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自、選択した論文について、著者の「問い」（問題関心・課題の捉え方）、課題へのアプローチの方法、「答え」（結論）に至る思考プロセスを分析する。 ④復習（120分） 「問い」の性質とアプローチの方法との相関関係について検討する。
5	①授業テーマ 「論文」を分析する（3） ②授業概要 選択した論文について、著者が何を課題とし、どのようなアプローチにより、どのような思考プロセスをたどって、どのような解決を導いているのかを分析して報告し、全員でディスカッションを行います。 受講者は、問題提起とその結論（仮説）の導き方について学び、報告に基づく相互間の討論を通じ、課題に対する探究や解決に関して、批判的に検討・検証し合いながら、自己自身の考えを合理的な論拠に基づきながら、より適切に表現できるようになる（E1・G1・F1・F2・K1・K2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自、選択した論文について、著者の「問い」（問題関心・課題の捉え方）、課題へのアプローチの方法、「答え」（結論）に至る思考プロセスを分析する。 ④復習（120分） 「問い」の性質とアプローチの方法との相関関係について検討する。
6	①授業テーマ グループによる発表とディスカッション（1） ②授業概要 グループで選択したテーマについて発表し、これに基づいてディスカッションを行います。 受講者は、チームワークの意義を理解し、協働して目的を達成する能力を身に付けることができるようになり（L1）、ディスカッションを通じて、問題の探究や問題解決の方法について、自己自身の考えを合理的な論拠に基づきながら、より適切に表現できるようになる（E1・G1・F1・F2・K1・K2・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。
7	①授業テーマ グループによる発表とディスカッション（2） ②授業概要 グループで選択したテーマについて発表し、これに基づいてディスカッションを行います。 受講者は、チームワークの意義を理解し、協働して目的を達成する能力を身に付ける

	ことができるようになり（L1）、ディスカッションを通じて、問題の探究や問題解決の方法について、自己自身の考えを合理的な論拠に基づきながら、より適切に表現できるようになる（E1・G1・F1・F2・K1・K2・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。
8	①授業テーマ グループによる発表とディスカッション（3） ②授業概要 グループで選択したテーマについて発表し、これに基づいてディスカッションを行います。 受講者は、チームワークの意義を理解し、協働して目的を達成する能力を身に付けることができるようになり（L1）、ディスカッションを通じて、問題の探究や問題解決の方法について、自己自身の考えを合理的な論拠に基づきながら、より適切に表現できるようになる（E1・G1・F1・F2・K1・K2・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。
9	①授業テーマ グループによる発表とディスカッション（4） ②授業概要 グループで選択したテーマについて発表し、これに基づいてディスカッションを行います。 受講者は、チームワークの意義を理解し、協働して目的を達成する能力を身に付けることができるようになり（L1）、ディスカッションを通じて、問題の探究や問題解決の方法について、自己自身の考えを合理的な論拠に基づきながら、より適切に表現できるようになる（E1・G1・F1・F2・K1・K2・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。
10	①授業テーマ 個人研究発表とディスカッション（1） ②授業概要 個人研究の発表を行い、これに基づいて全員でディスカッションします。 受講者は、発表を行うことで学識に基づく総合的な研究について表現できるようになり（E1・F1・F2・K2・M1）、ディスカッションを通じて、自己の意見に対する客観的な判断を行うことができ、相互に他者の異なる意見に触れ、自己の意見を批判的に見直し、偏りのない意見形成へと導くことができるようになる（G1・L1・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。
11	①授業テーマ 個人発表とディスカッション（2） ②授業概要 個人研究の発表を行い、これに基づいて全員でディスカッションします。 受講者は、発表を行うことで学識に基づく総合的な研究について表現できるようになり（E1・F1・F2・K2・M1）、ディスカッションを通じて、自己の意見に対する客観的な判断を行うことができ、相互に他者の異なる意見に触れ、自己の意見を批判的に見直し、偏りのない意見形成へと導くことができるようになる（G1・L1・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。

	①授業テーマ 個人発表とディスカッション（3） ②授業概要 個人研究の発表を行い、これに基づいて全員でディスカッションします。 受講者は、発表を行うことで学識に基づく総合的な研究について表現できるようになり（E1・F1・F2・K2・M1）、ディスカッションを通じて、自己の意見に対する客観的な判断を行うことができ、相互に他者の異なる意見に触れ、自己の意見を批判的に見直し、偏りのない意見形成へと導くことができるようになる（G1・L1・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。 ①授業テーマ 個人発表とディスカッション（4） ②授業概要 個人研究の発表を行い、これに基づいて全員でディスカッションします。 受講者は、発表を行うことで学識に基づく総合的な研究について表現できるようになり（E1・F1・F2・K2・M1）、ディスカッションを通じて、自己の意見に対する客観的な判断を行うことができ、相互に他者の異なる意見に触れ、自己の意見を批判的に見直し、偏りのない意見形成へと導くことができるようになる（G1・L1・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。 ①授業テーマ 個人発表とディスカッション（5） ②授業概要 個人研究の発表を行い、これに基づいて全員でディスカッションします。 受講者は、発表を行うことで学識に基づく総合的な研究について表現できるようになり（E1・F1・F2・K2・M1）、ディスカッションを通じて、自己の意見に対する客観的な判断を行うことができ、相互に他者の異なる意見に触れ、自己の意見を批判的に見直し、偏りのない意見形成へと導くことができるようになる（G1・L1・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。 ①授業テーマ 個人発表とディスカッション（6） ②授業概要 個人研究の発表を行い、これに基づいて全員でディスカッションします。 受講者は、発表を行うことで学識に基づく総合的な研究について表現できるようになり（E1・F1・F2・K2・M1）、ディスカッションを通じて、自己の意見に対する客観的な判断を行うことができ、相互に他者の異なる意見に触れ、自己の意見を批判的に見直し、偏りのない意見形成へと導くことができるようになる（G1・L1・M1）。 ③予習（120分） テーマについて、ディスカッションに主体的に参加できるように事前に調べ、学習する。 ④復習（120分） 報告を振り返り、問題点をチェックする。
関連科目	「危機管理基礎演習Ⅰ(RMGT2601)」、「ゼミナールⅡ・Ⅲ・Ⅳ(RMGT4602・4603・4604)」
教科書	特に指定しません。
参考書・参考URL	テーマに合わせて、随時指摘します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に、告知します。 ■オフィスアワーは、別途お知らせします。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%：パブリックセキュリティ40%：グローバルセキュリティ20%：情報

セキュリティ20%
■危機管理と法学とのバランス
危機管理学40%：法学60%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.